

山辺町立作谷沢小・中学校 「小規模小中併設校の取組」

■ はじめに

山辺町立作谷沢小・中学校は、小規模の小中併設校である。運動会や文化祭といった大きな行事については、小中学生が一緒に企画・準備・実行までの取組を行っている。また、授業においても、音楽科は、1人の教員が小学1年生から中学3年生までの授業を受けもつなど、日常的に小中学校の教員が校種を越えて授業を行っている。

また、学校教育目標「オンリーワンの教育による『さくやざわ』の子どもの育成」のもとに、校内研究のテーマを、「主体的に学ぶ子どもをめざして～小中9年間の学び方に焦点をあてて～」として小中学校の教員が協働して研究を進めている。

ここに
注目！

■ 小規模小中併設校の良さと課題～校長先生へのインタビューより～

【良さ】

- 小学生は、毎日、中学生のくらしぶりや責任感ある姿等を目にすることになる。そこから中学生に憧れの思いを寄せている。
- 中学生は、中学生の自分を自覚し始めたときに、小学生としての下級生の存在を意識し、さらに中学生としての自覚を高めていくという姿がある。
- 中学生は、行事の企画・運営や普段の生活の中で判断・行動していく際の根拠として、小学生の生活や今の育ちを考えることが当たり前になってきている。「小学校の時間は～だから、この活動は、○曜日の△△時間からしよう」「この場面では、中学生ではなく小学生にがんばってもらおう」などといったことを、中学生が自分自身の経験と重ねながらよく話している。小学生を意識することで、中学生である自分の成長をも感じることができている。
- 小中併設校ならではの「なだらかな校種の移行」が行われている。その中で、「中学生である」という意識を小学生との関係性の中で意識的に感じさせていくこと、そうした「心地よいギャップ」が、子どもを育てることに大きく機能している。

【課題】

- 9年間、もしくは、幼稚園から考えれば12年間に、人間関係が固定化したり、個人への一方的な見方が定着してしまったりすることがあると、子どもの自己実現の障害にもなりかねない。また、小集団であるがゆえに、一人一人の子どもの様子や心の内面をよくみていかなければならない。

■ 小中合同の活動（一部）

○ Welcome 花壇づくり

小学校児童会、中学校生徒会が合同で取り組んでいる。小中学生のグループ「ちょボラ班」でプランターに花を植え、小学生が朝に、そして、中学生が放課後の水かけ当番になって世話をしていく。

○ 地区民大運動会

小中学生がそれぞれの役割をもちながら、一緒に企画・準備・実行していく。小中学生一緒になった応援合戦や全員リレーを行う。また、地区民の運動会を兼ねるため、地域の方々との交流もある。



■ 小中9年間の学び方に焦点をあてた校内研究

学び方の視点としている「基本的な学習スキル」と「課題を解決する能力」について、「子どもに付いた力」と「教師の指導」の側面から小中学校教員全員で授業研究会を行っている。その拠りどころとして「基本的な学習スキルを身に付ける段階的な目標」（別紙資料）や「教科領域別系統表 作谷沢小・中学校版」を作成している。

○「オンリーワンカルテ」をもとにした授業の構想

(2) めざす子ども像に迫るために(6年)		
めざす子ども像 自ら課題意識を持ち、見通しを持ちながら解決していく子ども		
《指導における手立て》		
	T男	T女
解決する	- 交流活動では、自分の思いをアドバイスを積極的に出せるように声かけをする。 - アドバイスを生かせるようにメモをとることを促す。 - 段落を構成する上で、「過去（事実）・現在（考え）・未来（意志）」「過去・現在・過去」や、「現在・過去・現在」などの構成があることを学習し、児童は自分にはどのような書き方がいいのかを考えられるようにする。 - イメージマップで、事実と自分の考えを色別のカードに区別して書けるように準備し、後の段落構成に生かせるようにする。 - リーダーを中心に自分たちで交流活動ができるようにする。	学習リーダーとなり、交流活動を進められるよう支援する。意欲は高いので、話し合いを整理して進められるように、テーマ・構成・文章表現の3つのポイントを示す。
《児童の国語科におけるレディネス》		
観 点	T男	T女
興味関心	十分な時間が保障されれば、じっくり読んだり書いたりしようという態度が見られる。	文章を読んだり書いたりすることへの興味はある。
書くこと	言葉が豊富でおもしろい文章が書ける。説明をする文章でも、順序を表す言葉や要点をある程度押さえ分りやすい文章を書くことができる。文章のまとまりを考えることが課題である。 漢字に苦手意識を持っていたが、日々練習を積み重ねているので正しく書けるようになり自信になっている。	自分の思いや悩みを文章で書き表すことで吐露することが多かった。素直に自分を出すことができる。 思いついたことを次々と書いていくので、文章としてあまり整理されていない。
読むこと	テーマをつかみながら読み取っていくことは難しい。友達との読み取りや考えを聞いて、自分の考えを広げたり深めたりしながら学習していく。	自分の考えを持ちながら読み進めることができるが、思い込みで誤読してしまうことがある。
《学び方のオンリーワンカルテ》		
	T男	T女
聞き方	話の内容を大まかに聞き取ることはできる。自分の意見と似ているかどうかということは意識して聞いている。	話の内容は大体聞き取ることができる。集中力には波がある。
話し方	4月当初は、積極的に自分の考えを話すことができなかったが、諸行事でリーダーを務める経験を積み、人前で臨機応変に話ができるようになってきた。	意欲を持って積極的に自分の意見を発表しようとしている。リーダーの経験を通して、さらに自信をつけている。
話し合い方	自分から話を進めようとはなかなかできないが、何とかしなければならないという意識は持っている。	リードして話を進めようとする姿勢が見える。また、話題からそれないように意識しながら話し合っている。
書き方	ていねいに書くことができる。物事の特徴をとらえ、順序に気をつけながら文章を書くことができる。段落はあま	物事を大まかに捉えることはできるが、考えを整理することが難しい。 ていねいに書く意識は高くなっている。

作谷沢小・中学校 学習指導案（一部抜粋）

児童生徒の実態を基盤にしたボトムアップの考え方で、授業を構想している。

課題解決能力の育成を強く意識して、めざす子ども像に近づくため、主体的な問題解決過程に必要な手立ては何か考えます。

教科のレディネスを把握し、きめ細やかな指導をめざします。

ここに注目！

「オンリーワンカルテ」は、一人一人の学び方の実態、短期目標、長期目標と個別の配慮事項や指導の手立て、変容などを記載したものです。この「オンリーワンカルテ」をベースに一人一人の子どもの実態に合った授業が構想されていきます。

■ まとめ

取材を通して、小規模小中併設校だからこそできる小中連携のように感じるが、一人一人の子どもの実態を丁寧につなぎ合わせながら9年間を見通して育てていくことは、学校規模に限らず、大切な視点である。また、小学校から中学校に進学する際の不安は解消していく必要があるが、「憧れの中学生のような自分になりたい」という子どもの思いを「心地よいギャップ」として学校生活に位置付けていくことも大切であると感じた。

□ 学校基礎データ（平成24年度）

学校名	児童生徒数（学級数）
山辺町立作谷沢小・中学校	小学校 12名 中学校 8名（すべて複式学級）

【資料】「基本的な学習スキル」を身に付ける段階的な目標

	小1・2年	小3・4年	小5・6年	中1年	中2年	中3年
聞き方	- 話し手の方を向き、うなずきながら聞く。 - 話の大きな内容を理解する。(1年) 大事な事や聞き逃さないように聞く。(2年)	- 自分の考えと比べながら聞く。 - 話の中心に気をつけながら聞く。	- 自分の考えとの共通点や相違点を意識しながら聞く。 - 話し手の意図をとらえながら聞く。	- 自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞く。 - 必要に応じて質問し、メモを取りながら聞く。	- 論理的な構成や展開などに注意して聞く。 - 自分の考えと比較して聞く。	聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを高めたり、自分の表現に生かしたりしながら聞く。
話し方	- 順序に気をつけて話す。 - 自分の考えとその理由を言う。	- 要点をとらえながら話す。 - 他の人の話を受けて、自分の考えを話す。	- 内容が伝わりやすいように工夫して話す。 - 自分の言葉で話す。	- 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成して話す。 - 相手の反応を察しながら話す。	- 話の中心と付加的部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話す。 - 異なる立場や考えを想定し、自分の考えをまとめて話す。	- 経験や知識を整理して考えをまとめて話す。 - 語句や文を効果的に使い、資料なども活用して説得力のある話をする。 - 社会の中に話題を求めて話す。 - 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使う。
話し合い方	話題に沿って話す。	聞いたことを受けて話す。	場や相手に応じた話し方で話す。	速度や音遣、調子や間の取り方、わかりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについて知識を生かして話す。	- 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合う。 - 互いの発言を検討して、自分の考えを広げながら話し合う。	課題の解決に向けて、互いの考えを生かし合いながら話す。
書き方	- ノート(リーダー)を立て、考えを出し合う。 - ノートの使い方(5/11) (本校の「ノートの使い方」11項目中いくつか達成できているか。) 1分間で15字程度書ける。(1年) 1分間で25字程度書ける。(3年) 1分間で30字程度書ける。(4年) - 文章の正しい書き方に気をつけて書く。	- 進行(リーダー)を立て、話題を明確にしながらかつて話し合いをたり質問したりする。 - ノートの使い方(8/11) 1分間で25字程度書ける。(3年) 1分間で30字程度書ける。(4年) - 文章の正しい書き方に気をつけて書く。	- 進行(リーダー)を中心に、意見の意図をとらえながら話し合いを進める。 - ノートの使い方(11/11) 1分間で35字程度書ける。(5年) 1分間で40字程度書ける。(6年) - 文章の効率的な書き方に気をつけて書く。	伝えたい事実や事柄について自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして書く。	事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えたり、描き方を工夫したりして書く。	- テーマに関連する資料を様々な情報手段を効果的に活用して収集し、かつ必要に必要な情報を整理し分析できる。 - 多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえることができる。 - 調べた過程と結論を具体的に第三者により伝わるようにわかりやすくまとめる。
調べ方	- 調べたいことがある場合、本、図鑑、インターネットなどを活用できることを知り、実際に調べてみる。 - 調べたことを話したり、書いたりする。	- 年鑑やインターネットの活用について学び、正しく使うことができる。 - 資料活用のルールを守る。(編集・書き・メモ書き・図・資料名の明記) - 調べたことを話したり、書いたりする。	- 情報の正確性を考える。 - 調べたいことに合った資料や情報を探す。 - 必要なものを見出し、自分の言葉を使ってまとめる。	- 様々な参考図書の種類(新聞、パンフレット、地図や統計等)や調査方法(聞き取り調査やアンケート等)について知り、調べたいテーマにふさわしい適切な資料や調査方法を適切に選択できる。 - 索引・注・裏面などの機能を知る。	- 事実と自分が考えたことを分ける。判断根拠を示す。図や表を使ったり地図上に表現したりする。要点を自分の言葉で簡潔にまとめる。 - 留意してまとめる。 - 出典や引用を必ず明記する。	- テーマに関連する資料を様々な情報手段を効果的に活用して収集し、かつ必要に必要な情報を整理し分析できる。 - 多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえることができる。 - 調べた過程と結論を具体的に第三者により伝わるようにわかりやすくまとめる。
家庭学習の仕方	- 毎日、決まった時間・場所・机に向かう習慣をつける。 - 音読・読書・暗唱 - 宿題 2年生から自主学習も	- 課題を確実にやり、自主学習では自分の課題に向かっている。 - 自主学習の習慣もつける。	- 課題を確実にやり、自主学習では自分の課題に向かっている。 - 自主学習の習慣もつける。	- 自分の家庭学習のバターンを身に付ける。 - 計画的に取り組む。	- 内容のある家庭学習のしかたを身に付ける。 - 自主的に取り組む。	自分の課題を把握し、自ら進んで取り組む。

長井市立長井北中学校区

長井市立長井南中学校区

「中1ギャップの未然防止に向けた取組」

■ はじめに

長井北中学区及び長井南中学区では、「まずは、中学校の様子を見て知ってほしい。」「夢と希望をもって入学してほしい。」という思いから、小中連携活動を進めている。実際の連携活動としては、「小学生の中学校運動会への参加」や「部活動見学会」「あいさつ運動」「小中連携懇談会」「中学校便りの小学6年生への配付」などを計画的に推進し、中1ギャップの未然防止を図っている。

■ 小学生の中学校運動会への参加

長井北中学校、長井南中学校ともに、学区小学校の6年生に案内状を出して運動会に招待している。

ここに
注目！

長井北中学校では、小学生も参加して「地域ふれあい競技」としてまり入れを行うほか、応援合戦の審査（採点）にも参加してもらうことを通して、長井北中伝統の応援合戦をじっくり見て体験できるようにしている。平成24年度は70名程の参加があった。

長井南中学校では、「100m 公認記録会」と地域ふれあい種目としての「まり入れ」に小学生が参加できる機会をつくっている。100名ほどの参加者があった。各組の競技得点にも加わることになる。競技前に自己紹介などを行って交流を深めるきっかけにもなっている。文化祭にも案内をしている。

小学生のみなさんへ!!

第31回 北中大会運動会を ぜひ見に来て下さい!!!

長井北中大会運動会実行委員会

今年度の北中大会は、「北風」をスローガンに掲げ、小学校でのあいさつ運動、地域でのボランティア活動等を行っています。今回、小学生との交流を深め、北中について知ってもらい、今以上に「北風」を吹かせたいと考えているので、応援合戦が中心となりますが、ぜひ見に来て頂きたいと思います。

1. 期日：9月1日(土) ※雨天時は9月2日(日)に延期になります。
2. 時間：13:00～14:00 ※12:45まで集合して下さい。
当日は9:10～16:00まで競争や応援を行います。
お好きな時間においで頂いて結構です。13:00になったら声をかけますので集合して下さい。
3. 集合場所：グラウンド西側(サッカーゴール付近) 持ち物：筆記用具
4. 招待者：西根小、敦賀小、長井小の北中学区の小学校6年生
5. 当日の流れ：当日は運動会実行委員会の生徒が案内します。
13:00～13:10 整列(グラウンド西側) ※当日の流れを説明します。
13:15～13:50 応援合戦の鑑賞(テント&シートを用意します)
赤組、白組、青組を5分30秒の制限時間の中で各組のテーマによって様々な応援合戦を行います。
13:55～14:10 ○感想発表→各学校1,2名の人にその場で(1分以内)一言、感想発表をしてもらいます。
○投票→どの組が一番よかったですか?投票してもらいます。
お楽しみ：応援合戦の傍に「地域ふれあい」をテーマに、地域のみなさんに協力してもらって競技があるため、ぜひ協力して下さい!!!



■ 「部活動見学会」の実践

長井北中学校の部活動部長会の企画で、10月23日の土曜日に3小学校の6年生の希望者41名の参加を得て、部活動見学会を行った。当日は、参加小学生で4～5人の小グループをつくり、中学3年生の部長が案内役となって各部の活動を紹介し見学して回った。